

西神納地域まちづくり新聞

アンケート
特集号

発行：西神納地域まちづくり協議会 令和6年3月15日 第22号

中学生
以上

全住民アンケート分析レポート(概要版) 西神納地域版

みなさんこんにちは。

西神納地域まちづくり協議会 会長の齋藤美千男と申します。

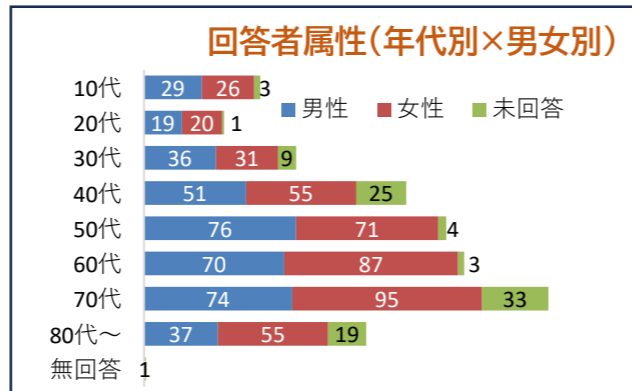
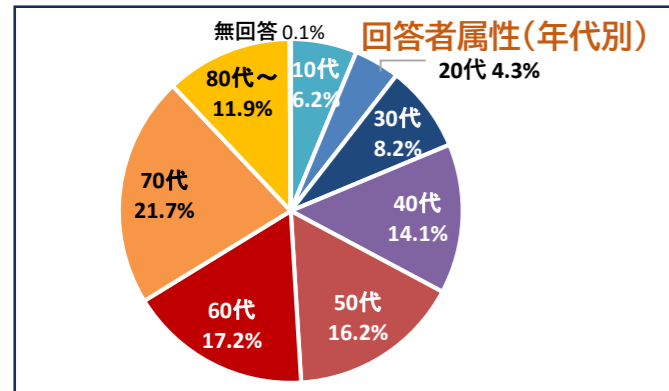
日頃より当まちづくり協議会事業においては、ご理解とご協力を頂き厚くお礼申し上げます。

また、今回実施のアンケート調査においては、地域の皆様のご協力により89.8%という高い回答率を得ることができ大変ありがとうございました。

地域の皆様におかれましては、調査結果の内容をご確認頂き、年代毎の思いや課題について共有できればと思っております。当協議会ではアンケート調査結果を踏まえ、今後の事業に生かして行きたいと考えております。今後も地域の皆様との連携を深め、より良い地域社会の実現に向けて進めてまいります。引き続き、ご支援・ご協力を頂きますようお願いいたします。

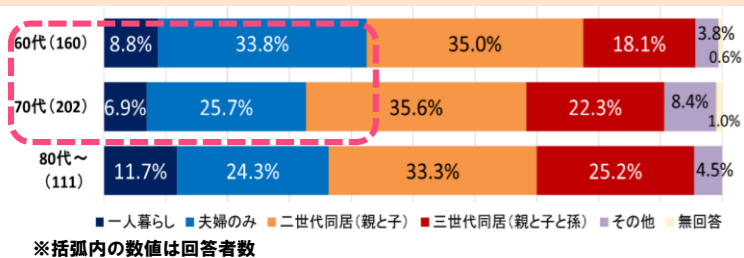
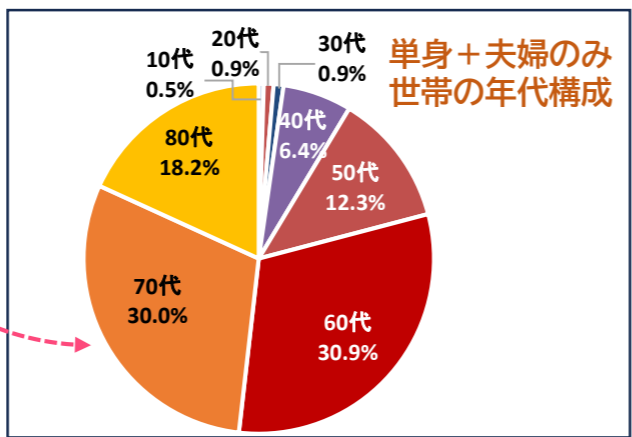
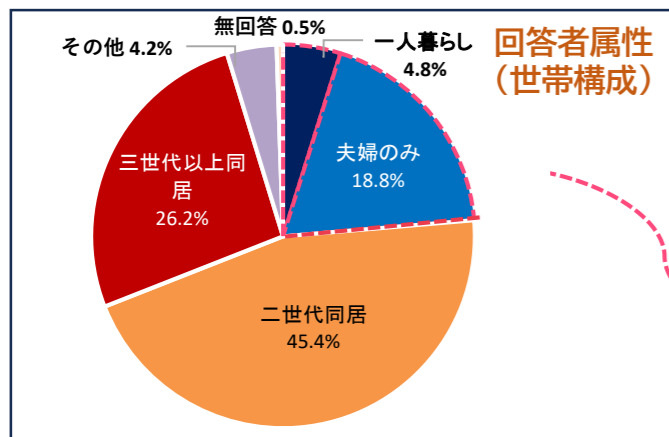
実施時期：2023年6月
配布数：1,036通
有効回答数：930通
有効回答率：89.8%

昨年6月に実施した西神納地域の中学生以上全住民を対象としたアンケートの調査結果です。
ご協力ありがとうございました！



★アンケート結果について★

結果は数を比較するのではなく、**年代別の回答割合を比較し**、世代間の意識の違いを浮かびあがらせています。



60~70代の3~4割は単身もしくは夫婦のみ世帯

単身+夫婦のみ世帯の年代構成をみると...単身及び夫婦のみ世帯の79.1%が60代以上

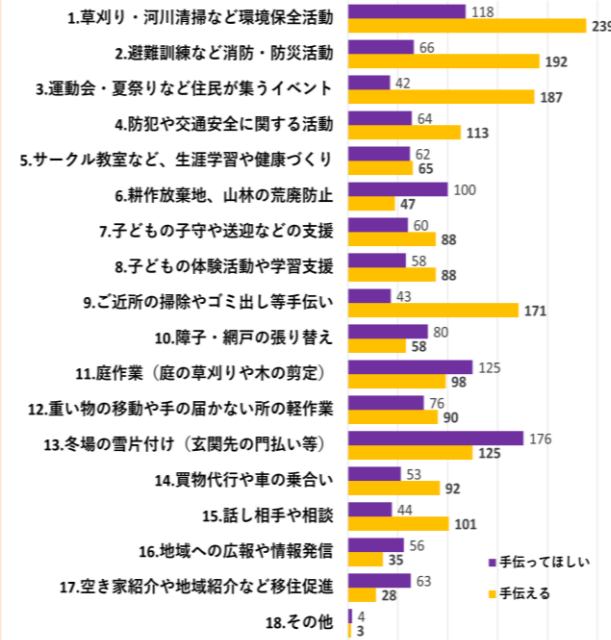
単身+夫婦のみ世帯の大半が高齢世帯!
家族で担っていたことが、この先難しくなる可能性がある

Q これからの将来を見据えてこの地域の地域づくりに対して大切に思うものは?

★トップ3★

- ①子どもや若者が、住み続けたい・戻ってきたいと思える環境が整っている地域にする
- ②思いやりをもって声をかけ合い、お互いの支え合い・助け合いが日常的にある地域にする
- ③安定した収入が得られる仕事・産業を生み出していく

手伝ってほしい/手伝えること



Q 地域内で手伝ってほしいこと手伝えることはなんですか?

大半の作業項目で

手伝ってほしい<手伝える

共助の担い手となる住民は潜在的にかなりの人数がいる!
お互いさまで暮らしを支え合う仕組みを構築できれば、住民同士での共助が成立する土壌はある!



まちづくり協議会に対する期待・要望・ご意見

- ・アンケートに答えてみて、自分でもできる活動が沢山あるのだと感じた。(20代女性)
- ・今回のアンケートで、いろいろな取り組みをしていることがわかりました。また、いかに自分が地域の事を知らないのだとわかりました。何か協力できることがあれば協力していきたいと思えます。(40代男性)
- ・地域で支えあうことは非常に重要だと思います。独居になれば心配不安も大きくなりますし、助けて欲しくても言えない方も多いのではないのでしょうか。普段からのコミュニケーションが大切です。そういう場を設けること、機会を多く持つことができればと思います。今は勤務していて、お手伝いしたくても難しい状況です。(土日呼び出しがあれば出勤することもあり)孫の将来を考えた時、故郷に帰ってきたくなる、そのような地であって欲しいと思います。頑張ってください!! 仕事から離れたときにご協力させていただきたいと考えています。(50代女性)

分析レポートはいかがでしたか? 調査結果は34ページにも及ぶレポートになったため今回は、皆さんへ「特に知っていただきたいポイント」をピックアップしてお伝えしました。人口減少がさらに進む将来を見据え、地域の営みを持続可能なものとするためには、これまでのやり方や活動内容を見直し、負担軽減を図っていくことが不可欠です。そして困難とも思える地域課題解決の中に楽しみを見つけ活動していくことが大切なのではないでしょうか。「楽しい・うれしい・面白い」これらを追求しながら前向きにチャレンジする。その積み重ねから今の時代を生き抜く知恵とエネルギーが生まれてくるのではないのでしょうか。


下記QRコードから西神納地域まちづくり協議会ホームページの「住民アンケート調査結果」をご覧くださいませ。



Q この地域へ愛着がありますか？

地域全体では6割以上が「地域に愛着がある」

- ▶ 10・20代の愛着度は6割弱
- ▶ 30代は「愛着ない」が3割強と高い
- ▶ 地域全体では前回調査（H29）より愛着度は増加



Q 今後もこの地域に住み続けたいと思いますか？

「この地域に住み続けたい」は地域全体では6割以上

- ▶ 10代の定住意向は1/3前後、20～30代は4割と低い。ただし「わからない」も4～5割いる
- ▶ 前回調査（H29）に比べ、地域全体は微増だが、50代以下の定住意向は軒並み低下。特に10・30代は10%近く減少


Q 自分の子どもにもこの地域に住み続けてほしいと思いますか？

「自分の子どもにも住み続けてほしい」は地域全体で4割強

- ▶ 20～50代は「住み続けてほしい」は2～3割。「わからない」が4～6割
- ▶ 30代と50代女性は「住み続けて欲しいとは思わない」の方が多い
- ▶ 前回調査（H29）に比べ、60代以下の年代で子どもへの定住希望が低下

「わからない」が多いということはこれからの取り組み次第！

愛着があっても定住意向が低のは**将来への希望・安心感が足りていない**ことが要因！？



Q 地域活動に関心がありますか？


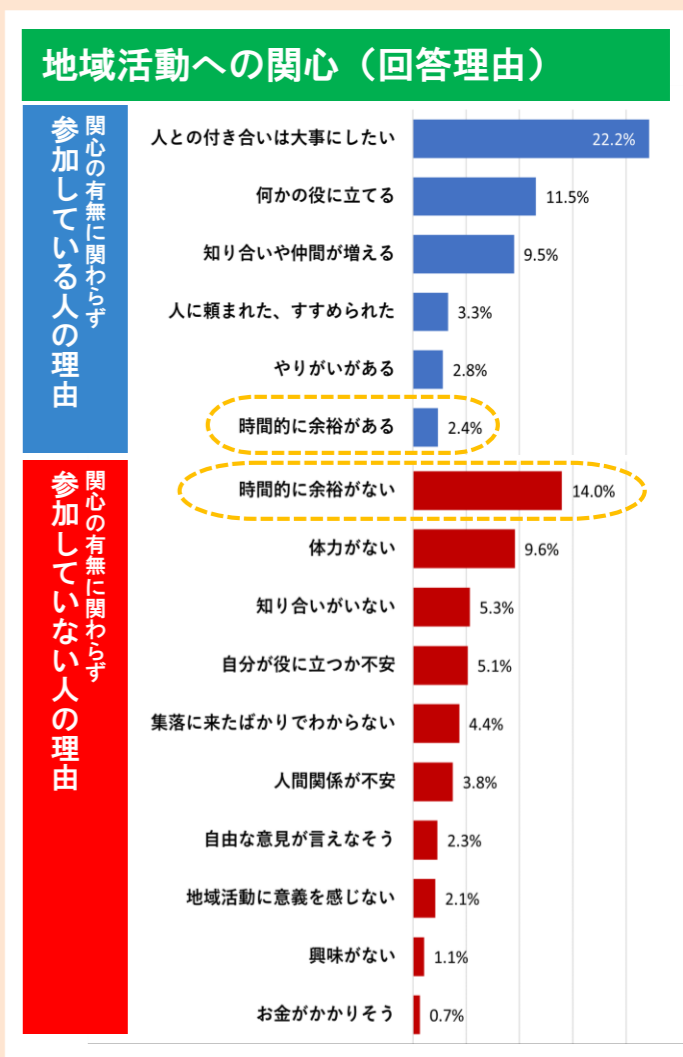
4割半ばが関心の有無に関わらず地域活動に参加している

- ▶ 30～70代男性と30代女性は半数以上が参加
- ▶ 「関心あり+不参加」はどの年代でも3～5割いる
- ▶ 「関心なし+不参加」が30代以下は2割以上。20代男性は3割
- ▶ 前回調査（H29）と比較すると、全体的に参加率は微増。10～30代で「関心なし+不参加」の割合が上昇

Q 休日はいつですか？

20代～50代の働いている世代

土曜日が毎週休み 3割前後
日曜日が毎週休み 6割弱





Q この地域での日々の暮らしで心配なこと不安に感じていること

★トップ5★


- ①自分自身の健康面
- ②屋根の雪おろしや玄関先の門払いなど冬季の除雪
- ③災害への備えや避難など防災・安全
- ④安定して収入が得られるか
- ⑤親の介護や生活支援

「将来」



「特定の年代で不安が大きい項目」
 【10代】進学・就職/買物不便/気軽に集まる場/通学・学習環境
 【30代】子育て環境
 【70代】空き家/農地山林
 【80代】医療・福祉/交通手段


必ずしも、時間に余裕があるから参加している訳ではない。働いている世代は必ずしも土日が休みではない。**多様な参加の方法・工夫・配慮**が必要。




Q 集落内・地区内に家族以外で相談相手はいますか？

集落内は6割、地区内には2/3が相談相手がいる

- ▶ 20代は6割が集落内に相談相手がいらない。10代・30～50代も5割前後が集落内に相談相手がいらない
- ▶ 20～50代は4割前後が地区内にも相談相手がいらない



年代により心配ごとはちがうが**地域の暮らし・営みを持続可能なものとするための取り組み・将来への備えが、強く求められている**



若年層のコミュニケーション機会のあり方・頻度を考えていく必要があるのでは？

